

大自然の恵みと 地域の人々の 大きなあたたかさを 感じて過ごしています。



今回は、関東から移住されてきた直井さん夫妻にお話をお伺いしました。

Q 移住を考えたきっかけを教えてください。

大きなきっかけは、2011年に起こった東日本大震災と娘の誕生です。当時、東京で働いていたのですが、当日はもちろん電車は動かず、帰宅難民となりました。食料を手に入れようとコンビニに向かうと、どこも品切れ状態で水すら買えませんでした。何時間もかけて徒歩で帰る人達の行列や、道の先までずっと続く、動かない車の赤いテールランプ、駅のホームではあふれんばかりの人々、こんな様子を見て「次に関東で大きな地震が起きたら、これどころではすまされないのではないか」と考えるようになりました。



都心では極端に食料の自給力が低いのです。自身の自給力の低さに愕然としました。

さらに、震災後に起こった福島第一原発の爆発事故に起因する、放射能の問題。食物に関する安全性を考えたのもきっかけのひとつですね。インターネットで色々と調べていくと、チェルノブイリ原子力発電所の事故と比較したものなどもあり、「産まれたばかりの娘には、より安全な食物を食べさせてあげたい。」と思うようになりました。生産者との距離を縮めたい、自分でも作ってみたい、ということが決め手となりました。

Q 移住後の生活はいかがですか？



引越してくるまでは親戚や知り合いもない、土地勘もまったくない場所で暮らして行けるのだろうかと不安が大きかったです。でも、そんな不安はすぐに吹き飛びましたね。こちらに引越してきた初日、お借りしている家のオーナーさんが、ご挨拶まわりを一緒にしてくださいました。とても心強かったですね。それから、ご近所のみなさんが周辺を案内してくださいました。町内会へも紹介していただき、今では声を掛けあう方がいっぱいできて、散歩も楽しいです。またその縁で、移住前からの希望だった、貸し農園で野菜作りを行うことができ、とても助かりました。現在も野菜作りに奮闘中です！

Q 「これはおどろいた！」という事がありますか？

なによりおどろいたのは、ご近所のみなさんにお野菜をいただくことが多いこと。これがまた美味しくて、同じ畑を借りてる方々やご近所の方が口を揃えて、

「採りたてのお野菜を食べたら、もうスーパーでなんて買えないよ」

「お野菜はご近所からいただくことが多いから、買うことがなくなるよ」

と言っていた意味がわかりました。



こうした日々を過ごしていると、いままでの価値観に、大きな変化が起こりました。それは、人間の体を構成している物は食物であるということの再認識と、地域の人々の支え合いがあって生きているということです。

人間関係の希薄な都心の生活では見えてこなかった、人生の本質的な部分だと思います。

Q これからどのように過ごしていきたいですか？



野菜作りに関しては経験も知識もないので、これからじっくり勉強していきたいです。慣れてきたら、もう少し大きな畑を借りて様々な物にチャレンジしたいですね。

以前は、パソコンを使ったグラフィックの職についていたので、この経験が地域活性化に役立てればと思います。

妻はパン作りが趣味なので、こちらも地域の行事などで活かせればと思います。